

し、7号住居跡の南側部分のプラン確認につとめた。

地表面から50cmの深さで堅い粘土質の面を検出したが、トレンチ断面にわずかに残された本来の遺構確認面が地表から30cmほどの深さで検出されたため、土が混合している様子からも後世につきかためたものと判断された。

第3区列以南は倉庫があったため、調査できなかったが、同様に攪乱されていることが推察される。遺構・遺物は一切確認できなかったため、埋め戻しを開始した。27日、埋め戻しを終了し、器材を撤収した。



滝遺跡試掘調査作業風景（南より）

Ⅲ 城山遺跡の確認調査

所在地 大字福岡170-1, 171-2

原因 公園造成

調査面積 1500m²

調査期間 H17.5.19～6.14.

調査担当 柳沢健司

調査補佐 藤牧守絵

検出遺構 なし

概要 調査区は、新河岸川旧河道左岸の標高7mに立地し、第1次調査区の南方80mの地点である。

5月19日、東側土地境界線を基準に北へ向かって1～25区、A～V区を設定し、C区列から表土除去作業を開始した。地表から30cmで粘土質の面が確認できたので、遺構プラン確認のための精査を行った。20日、I区列までの表土除去をおこなうとともに調査区の全体の様相をつかむため、第3区列の表土除去を優先的に行った。また、23日に第13～第17区列の表土除去を集中的に行った。O-17区で「堀」と思われる遺構の西壁部分と推察されたため、O-15区、O-17区をつなげるように表土除去作業を行った。K-17、K-15区、Q-3区で樹木の根ないし木材片を確認した。

城山遺跡確認調査表土除去作業風景（南より）



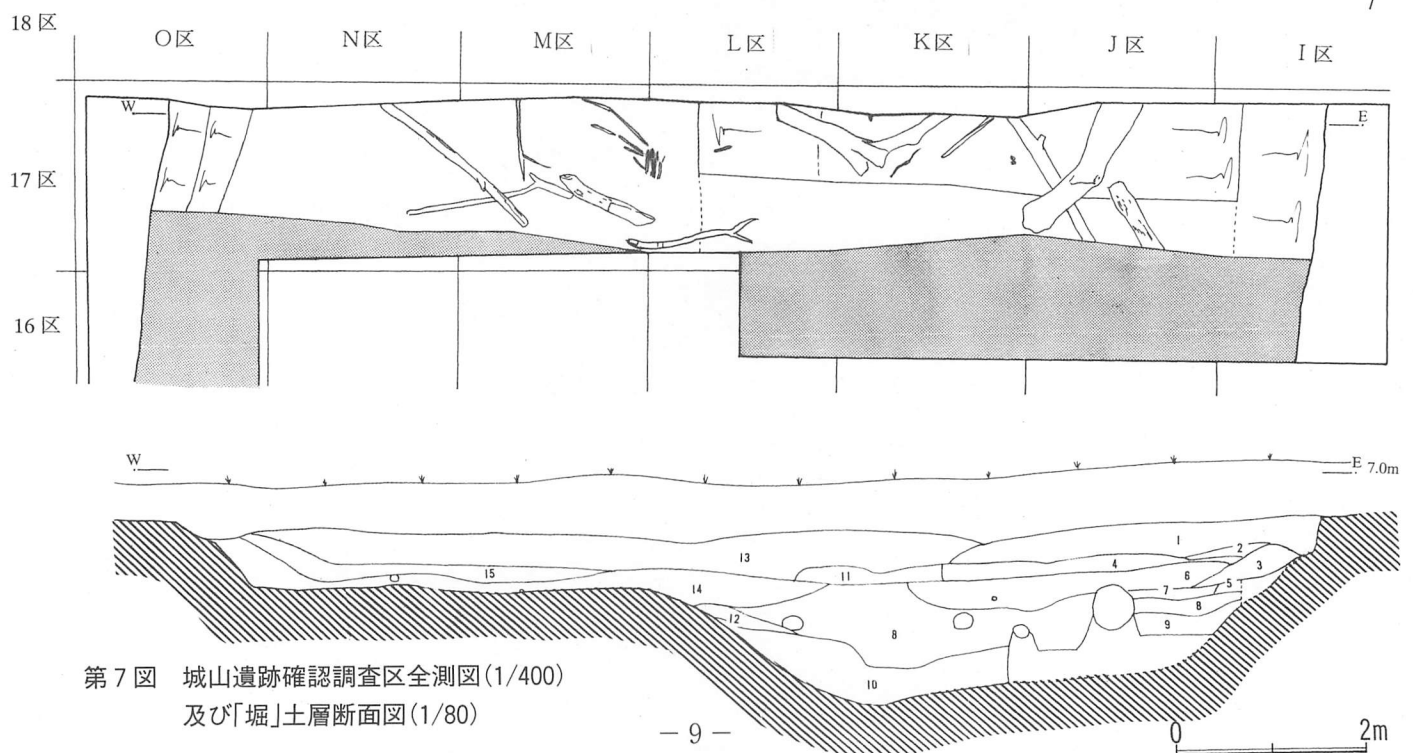
第6図 城山遺跡確認調査区位置図(1/5000)





城山遺跡確認調査「堀」土層注記

1. 褐色土層（暗褐色、黄褐色、灰褐色、黒褐色、粘土粒子、粘土ブロックを含む。）
2. 灰褐色土層（黒褐色、黄褐色、粘土粒子、粘土ブロックを含む。）
3. 暗褐色土層
4. 橙色土層（鉄分粒子多量に含む。）
5. 橙色土層（鉄分粒子多量に含む。）
6. 灰色土層（鉄分粒子、黒褐色土粒子、黄褐色土粒子含む。）
7. 暗灰色土層（粘性強い。6と異なり混じりものがない。）
8. 青灰色土層（木材片を多量に含み、締まりが悪い。）
9. 青灰色土層（8より砂質で色調やや明るい。締まりが良い。）
10. 青灰色土層（粘性強い。）
11. 青灰褐色土層（鉄分粒子を含む。）
12. 黄褐色土層（木材片を多量に含み、もろい。）
13. 暗灰褐色土層（粘性強い。）
14. 暗灰褐色土層（粘性強い。）
15. 橙色土層（鉄分粒子を含む。）



第7図 城山遺跡確認調査区全測図(1/400)
及び「堀」土層断面図(1/80)



城山遺跡確認調査第17区列「堀」調査風景（西より）

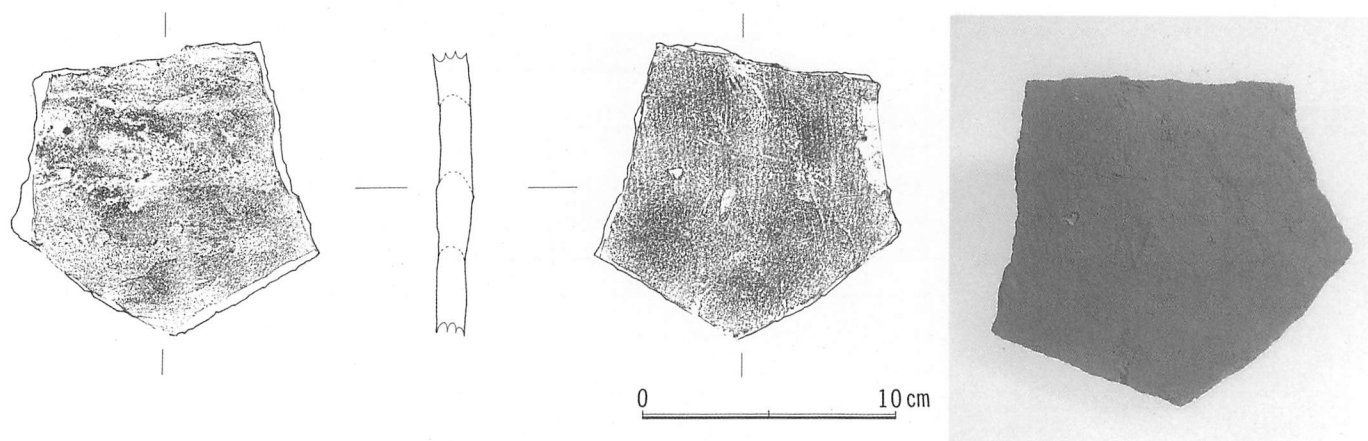


城山遺跡確認調査第17区列「堀」近景（西より）

24日、第15区列、第17区で確認された「堀」の東壁の北側延長部分を確認するため、I区列を第15区から第25区まで改めて掘り下げた。25日、「堀」の幅の確認するため、第17区列をI区からO区までトレンチ状につなげる作業にとりかかった。K～S区列の表土除去と遺構確認面の精査を北側から順次行って第7区列まで着手した。26日、「堀」のプランが地表より60cmで確認されていることから、同じ高さで、柱穴を確認する目的で、第17区列のG、E、C区をさらに30cm掘り下げる作業に着手した。

27日、「堀」の東側プランを確認するため、H-21区、J-13区、K-8区の表土除去と確認面精査を行った。また、C-17区を30cm掘り下げた。K-8区にて「堀」の東側プランと土坑を1基確認した。6月3日、G-23区とI-23区、G-25区とI-25区をそれぞれつなげる作業を行い、Q-9区にて「堀」のプランを確認したので、Q-7区の表土除去を行った。またK、L-6、-7区の表土除去を行った。「堀」は、R-3、4区で東側へ屈曲していること、幅がおおむね12mほどであることが確認された。第17区列で「堀」の覆土除去作業に着手した。さらに「堀」の方向を確認するためI-3区とI-5区をつなげる作業にとりかかった。6日、「堀」の覆土除去作業を行った。直径10～20cmほどの丸太材が投げ込まれている様子が確認された。「堀」のO～L区西側では地表より

110cmで底面と思われる面に達したが、L区東側からI区までは青灰色の覆土が続いていた。そのため「堀」の北半分を幅1mでサブトレンチ状に掘り下げる作業にとりかかった。I-3区とI-5区をつなげる作業の結果、「堀」が更に東側に向かっていることが確認された。8日、丸太材を除去しつつ「堀」の覆土除去を行った。地表面より深さ2m40cm、地表より2mの深さで砂質土に変わり、混じりもののない層となったため、堀の底面と考えられた。常滑甕と思われる陶器破片が検出された。9日、「堀」の写真撮影と「堀」の第17区列部分の実測をおこない、丸太材のうち加工されたと思われるものを一部取りあげた。G-4区とC-4区の表土除去を行い、「堀」の北壁部分を確認し、東側の隣接地に「堀」が伸びていることを確認した。測量器材以外を撤収した。10日、試掘グリッドのレベリングを行い全ての器材を撤収した。6月14日に重機にて埋め戻した。戦国時代の建物跡は確認できなかったが、近世の遺物を全く含まないため、



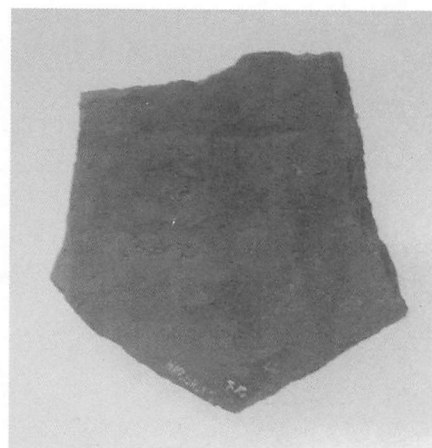
第8図 城山遺跡確認調査「堀」出土遺物実測図(1/3)

かろうじて中世の可能性を残した幅12mの「堀」が北側から東側へL字状に屈曲している状況を確認できた。

「堀」の年代や実際の性格は今後の調査をふくめて検討していきたい。

●出土遺物（第8図）

常滑甕胴部破片。「堀」の8層と10層の境界で出土した。器壁の厚さは、9mm～12mmである。内面及び断面の輪積み痕は、粘土紐4単位分と思われる。胎土色調は、赤褐色（10R4/4～6/4;2.5R4/6,4/8;2.5YR4/4,5/6）である。口縁部でないので時期は不明だが、13世紀以降～16世紀頃までの所産と思われる。



城山遺跡出土常滑甕胴部破片(上;表面、下;裏面)

IV 西遺跡の試掘調査

所在地 西2-2074-1の一部,
2075-1の一部

原因 共同住宅建設

調査面積 855m²

調査期間 H17.12.1.

調査担当 柳沢健司

調査補佐 藤牧守絵

検出遺構 溝1条

概要 西遺跡は北西側に東西方向に流れる川越江川を望む標高22m前後の台地上に位置している。遺跡の北西側は、急峻な斜面になっていて、川越市藤間地区との比高差は、8m以上に及ぶ。今回の調査区は、縄文時代の第19号住居跡や集石土坑が確認された第2・3次調査区の北西50mの地点に当たる。南西



第9図 西遺跡試掘調査区位置図(1/5000)